

多世代交流スペース運営

産学連携で企画・提案

東京都市大



東京都市大学、東急不動産、東急イーライフデザイン（東京都港区）、東急不動産次世代技術センター（同）は、東京都世田谷区に

2017年7月完成の共用施設内に創出を目指す世代を超えた交流スペース「コミュニティサロン」の運営方法で、産学連携による企画・提案を本格化する。東京都市大の学生らが交流方法や具体的な空間デザインの提案を始めた。新たな発想

▲産学連携で交流スペースを運営する（学生と担当社員の質疑応答）

を取り込む。

東京都市大学は都市生活学部と人間科学部内3研究室の学生が3班に分かれ、画期的な企画のアイデアを模索している。8日には東急不動産など連携する各社の担当者も出席し、学生による企画発表会を行った。学生は今後、発表会で出た各社の指摘などを踏まえ、提案をブラッシュアップする。

同発表会で「世代を超えたモノづくり空間」を提案した同都市生活学部3年生の小林秀太さんは、「モノづくりを通じた間接的な交流を、直接に変換するのが課題」とした。東急不動産は2015年、東京都世田谷区中町5丁目で分譲マンションとシニア住宅の複合開発を行う「世田谷中町プロジェクト」を着工。居住者だけでなく地域住民も利用できる共用施設「コミュニティプラザ」内に、コミュニティサロンを立ち上げる。